

音源の比較試聴(9)
—バッハのミサ曲口短調—

1. 始めに

前報(8)に引き続き、各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の再構成はアースアキュライザーの活用(6)で述べたとおりで、さらに対策を追加しています。今回もそれらの対策の効果をも音源を替えて総合的に確認していきます。

音源は、各種音源のバッハのミサ曲口短調 BWV232 を聴いていきます。

DVD

TDK TDBA-0013

ゲオルグ・クリストフ・ピラー指揮ゲヴァントハウス管弦楽団

聖トーマス教会合唱団

CD

ARCHIV POCA-2009/10

カール・リヒター指揮ミュンヘン・バッハ管弦楽団・ミュンヘン・バッハ合唱団

STAGE+

ジョン・エリオット・ガーディナー指揮

イングリッシュ・バロック・ソロイスツ・モンテヴェルディ合唱団

カール・リヒター指揮ミュンヘン・バッハ管弦楽団・ミュンヘン・バッハ合唱団,
ベルリンフィルデジタルコンサートホール

トン・コープマン指揮ベルリンフィル・RIAS 室内合唱団

放送録画

ヘルベルト・ブロムシュテット指揮ゲヴァントハウス管弦楽団

ドレスデン室内合唱団

3. 音源の比較試聴の試聴結果

DVD と CD は、再生前に CD クリーナーで処理します。

DVD ピラー指揮ゲヴァントハウス管弦楽団は、2000年7月ライブチッヒの聖トーマス教会での収録で、DMR-UBZ1で再生します。アルトのパートはカウンターテナーが務め、ソプラノとアルトの合唱陣は少年合唱団です。天井の高い教会での2階からの演奏で、オーケストラも合唱陣もソリストの歌唱も柔らかく優雅に響きます。

2000年の収録ですが、予想外にフレッシュな印象です。

CDのリヒター指揮ミュンヘン・バッハ管弦楽団の演奏は、1961年の録音で、EMT981からの再生とCDドライブから読み出してfidata HFAS1-S10経由でBrooklyn DAC+へ送り出しのルートで再生してみます。

EMT981からの再生では、1961年の録音ですが、EMT981の再生能力のポテンシアルにより、アナログ的な音で、ゆったり目のテンポで定番のリヒター指揮の演奏を聴かせてくれます。CDドライブからの読み出しの再生では、種々の対策の効果でEMT981からの再生に近づいた印象です。

STAGE+のガーディナー指揮イングリッシュ・バロック・ソロイスツの演奏は、2023年4月シャペルロワイヤルでの収録です。天井の高い教会での演奏で、古楽器群も合唱陣もソリストの歌唱も柔らかく優雅に響きます。

STAGE+のリヒター指揮ミュンヘン・バッハ管弦楽団の演奏は、上記CDと同じソリストですので、1961年収録のアナログマスターからの配信用音源へのリマスタリングのようです。STAGE+のアナログマスターからの配信用音源は、他の音源でもそうですが、とてもそのような古い収録のように思えないほど鮮度感があります。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールコープマン指揮ベルリンフィルの演奏は、2017年10月ベルリンフィル大ホールでの収録です。先のSTAGE+と違ってコンサートホールでの現代楽器での演奏で、クリアな音です。なお、コンサートマスターのソロヴァイオリンはガット弦のように聴こえますが、フルートなどはイングリッシュ・バロック・ソロイスツのフルートと違って現代楽器の音です。

放送録画はDMR-UBZ1からの再生で、ブロムシュテット指揮ゲヴァントハウス管弦楽団の演奏は、2017年6月のライブチッヒ・バッハ音楽祭のDVDのピラー指揮ゲヴァントハウス管弦楽団と同じ聖トーマス教会での収録です。DVDと同じく、天井の高い教会での2階からの演奏で、オーケストラも合唱陣もソリストの歌唱も柔らかく優雅に響きます。メディアや、指揮、合唱、ソリストは違いますが、DVDと同じくまぎれもなく聖トーマス教会でのゲヴァントハウスの演奏の音がしています。

4. まとめ

DVD、2経路からのCDの再生、二つの配信サイトからのストリーミング再生、放送録画のいずれをとっても、アースアキュライザーの投入とそれに伴うアースラインの再構成、さらにはAVドーナッツなどの結果、すべて効果が明白に現れ、格落ちするような音源のフォーマットや再生経路はなくなったことが確認できました。上記のように収録年代、収録箇所、演奏に使用する楽器などの特徴もよく再現しています。

以上

